

# ハント博士 グループワークメンター



クナーヌソン ナッタナイ  
物質理工学院応用科学系  
下山研究室・博士課程1年



<これまでの海外経験・サークル等>  
・ [TIROP先端理工系大学体験型短期派遣プログラム2014](#) (11日間) 米国ジョージア工科大学・マサチューセッツ工科大学 (MIT)

・ 2016年4月～2017年3月  
在日タイ留学生協会の会長として活動

今回のMolecular Frontiers Symposiumに学生メンターとして参加をしました。ノーベル科学者と話して、「ノーベル科学者としての考え方」を習う良い機会だと思い、学生メンターに応募しました。そこで、Tim Hunt先生のグループにメンターをやりました。

自分の分野とかなり違って、グループワークの内容を考慮するのは難しいと思いましたが、他のメンターとの協力でうまくできました。また、当日にTim Hunt先生と会って、研究内容から人生経験まで様々に話す機会があって、非常に優しく友好的な人だと感じました。

講演及びグループワークの時に各ノーベル科学者が最も伝えたいのは「Curious」という言葉でした。苦労は誰しも経験しますが、そのような状況でも、自分が知りたいことを熱心に解明し続けることが、ノーベル賞を受賞した理由だと考えました。それを習うことができ、人生の非常に良い教訓の一つになりました。今後も自分の研究に「Curious」で貢献したいと思います。

浅輪泰允  
生命理工学院生命理工学系  
中村研究室・修士課程1年



<これまでの海外経験・サークル等>

・ [ACLS夏の学校](#)

・ [AOTULE シンガポール超短期海外派遣プログラム2016](#)

・ [東工大サイエンステクノ](#)

Molecular Frontiers Symposiumに参加したのは、高校生とノーベル賞受賞学者の架け橋という重役に携わることで、専門的な知識を高校生にも伝わるように話す技術を学びたかったからです。

シンポジウムを無事に終えて、聞いて伝える技術だけでなく、場を盛り上げ、議論を円滑にさせるスキルを身につけることができました。はじめは高校生たちが緊張をしまい、ほとんど先生と話ができませんでした。そこで日本のどこが好きかや朝ご飯何食べたかなど他愛もない話で会話を楽しんでもらい、英語で話すことの壁を取り払いました。すると高校生たちは積極的に先生に話しかけられるようになりました。この経験から言語の壁を越えたファシリテーターとしての自覚を持ってました。

今後、積極的にファシリテーターとして活躍できる場に参加し、芽生えた技術を伸ばしていきたいと思います。

小倉尚人  
生命理工学院生命理工学系  
岩崎研究室・修士課程1年



- <これまでの海外経験・サークル等>
- ・オーストラリア サザンクロス大学語学留学2週間
  - ・[TKT CAMPUS ASIA 韓国KAIST派遣留学2015](#)
  - ・[AOTULE超短期派遣プログラム2016\(シンガポール\)](#)

Dr. Tim等、世界の名だたる研究者たちと会うことができる、というのが応募した最も大きな理由です。講演やグループワークを通して彼らの考え方や人柄について知りたいと思っていました。

事前準備では、グループワークの内容やタイムスケジュールを固め過ぎないことに気を付けました。本シンポジウムのメインは研究者と高校生が話すことだと思うので、窮屈なグループワークにはしてはいけなかったと思います。事前に、研究者の経歴と研究、その研究を自分ならどのように活かすか、ということを考えてきてもらいましたが、議論するうちに内容が逸れても良いと考えていました。実際にDr. Timはグループワークの内容に沿ったことだけでなく様々なことを話してください、楽しくも充実した時間となりました。

研究者だけでなく高校生からも科学に対する姿勢や貪欲さ等を学ぶことができ、私自身も非常に良い経験をさせていただきました。今後は、この経験を活かし、研究に励み、いつか本シンポジウムでお会いした研究者の方々と研究について議論できるようがんばります。

田中 道大  
物質理工学院応用化学系  
芹澤研究室・修士課程1年



- <これまでの海外経験・サークル等>
- ・[AOTULEオーストラリア超短期派遣プログラム2014](#)
  - ・[南アジア・スリランカ超短期派遣プログラム2014](#)
  - ・[日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム \(TKTキャンパスアジア\)](#)
  - ・[IAESTE \(日本国際学生技術研修協会\) 学生委員](#)
  - ・[東工大サイエンステクノ](#)

友人に誘われこのシンポジウムを知り、純粋な興味で学生メンターに応募しました。

シンポジウムでは、例えば、細胞周期や、リボソーム、2016年にノーベル生理学・医学賞を受賞した分野のオートファジーなど、各分野の立役者から直接講演を聞くことができ、科学の壮大な世界観を垣間見ることができました。また、先生方のユーモアのある平易な説明だけでなく、事前学習やグループワークでのディスカッションのおかげで、難しい内容も理解できたのではないかと思います。

準備において困難なことも多くありましたが、グループワークでは、熱く語りかけるTim Hunt先生と熱心に話を聞く高校生の様子がとても印象的でした。中でも活発に議論した「ヒトは永遠に生き続けられるか？」というサブテーマは、私も含め参加者の中で永遠の問いになったのではないのでしょうか？

最後に、私自身、将来は研究者として活躍したいと考えており、この貴重な経験を糧にして自身の成長につなげていきたいと思っています。

